

印西大師 第46番 結縁寺・結縁寺

1 名称 (No.046)〔手引鏡：結縁寺〕〔資料館：結縁寺〕〔行程表：結縁寺〕

2 場所 印西市結縁寺516 結縁寺(けちえんじ)

多々羅田・太子堂から道程約1,000m

(浅野材木店経由なら道程約860m、道路の横断注意)

GPS座標 35.79030340740711, 140.13522385928002

3 由緒 真言宗 晴天山 結縁寺

結縁寺村字外手にあり 真言宗にして晴天山と號す 大日如来を本尊とす 天平年中の開創とす今荒廢して昔日の面影なしと雖も幽邃閑雅(ゆうすいかんが)の一部落にして唯何となく古代の歴史を語るが如き感あるを覺ゆ 檀徒262人 (印旛郡誌)

4 御堂 立派な大師堂の中に丸彫りの御大師様が2体あり。

5 境内 大師堂のほか、本堂、山門、六地藏、門前にハス、彼岸花、本堂前に銀杏などあり。東隣に青年館、熊野神社と入定塚がある。

6 写真 (2019.08、2023.10撮影)



大師堂



大師堂



大師堂



大師堂



御大師様(左)



御大師様(右)



山門とハス



本堂



結縁寺青年館と熊野神社

7 情報

(1) 印西大師 第46番 結縁寺 御詠歌（泉倉寺本による）

極楽の浄瑠璃世界たくらえば う(受)くる苦楽は報ひならまし

四国八十八ヶ所 第46番 真言宗豊山派 医王山(いおうざん) 養珠院 浄瑠璃寺(じょうるりじ)

本尊 薬師如来（愛媛県松山市） 写し

(2) 銅造不動明王立像（どうぞうふどうみょうおうりゅうぞう）

鑄銅製の不動明王像で、高47cmの小像である。両腕は別鑄で肩先でつなぎ合わされ、銅造の岩座の上に立つ。頭髮は巻髪で弁髪を左肩に垂らし、顔は両眼を見開き、上下に牙をむき、唇をかむ忿怒の形相は生彩のある顔である。左手に羂索を持ち右手は腰脇に剣を持って、腰をひねって左足をやや開いて立つ。剣・羂索・光背・目と牙の金泥は補われたものである。両腕の太いがっしりとした構え、左足を開いてやや腰をひねる太造りの体軀に微妙な動きが表現され、条帛や腰裳は簡潔に表現され、写実的で迫力をもつ、鎌倉時代の造形感覚がよく現れた作品である。正面の裳の部分に「嘉元元年癸卯九月十五日／願主権律師滝尊」の刻銘があり、嘉元元年（1303）の造像であることがわかる。



現在は、結縁寺の寺宝として大切に保存され、年一度の開帳だけでしか目に触れる機会がないが、本来地域で伝えられてきたもので、古老の話ではこども達が帯で背負い遊んだという言い伝えもある。（千葉県教育委員会HP）

(3) 180年前の印西大師

天保13年(1842年)の結縁寺村の名主の「年中記録控之帳」には「(三月) 二六日は印西大師参りの接待」、「四月にはいと、すぐ苗代の種まきである。(中略) (四月二六日) から田植えが始まった。」(山本忠良著「印西外史」とあります。老中水野忠邦による天保の掘割工事が行われたのが翌年の天保14年で、約180年前のことです。田植えが始まる1か月前に印西大師が行われていたことがわかります。ただし、ここに書かれている(天保13年) 3月26日というのは旧暦とすると、西暦でいえば5月6日頃ということになります。季節としては現在より約1か月遅い時期に印西大師が行われていたのでしょうか。

(4) にほんの里百選 24・結縁寺

2008年11月選定（朝日新聞社創刊130周年・森林文化協会30周年記念事業）

http://www.sato100.com/?page_id=129#information

2024.02 一部修正